

なかつか 亮



2012年5月27日(日)

NO358

区議控室 Tel 5742-6818

事務所 大井3-19-7-101

Tel 3773-3231

5月21～22日 宮城県石巻市へ 震災ボランティア

仮設住宅 入居から1年 「住宅再建、見通し立たない」と被災者



車椅子4台、シルバーカー2台を乗用车に積み21日早朝、東京を出発。宮城県石巻市へ、震災ボランティアに参加しました。現地では支援物資の整理、仮設住宅への「お届け隊」、被災者要望の聞きとり調査を行いました。

5月21日撮影 海岸は瓦礫と廃車となった車の山で一杯。
津波にのまれた街は、3・11で時間が止まったようでした。

震災から一年後
東北自動車道を走行していると、いまだブルーシートで瓦屋根を覆っている家屋が目に見え込んできます。

東日本大震災から一年が立った宮城県石巻市。高速道路を降り市内に入ると大手スーパー、パチンコ店、ガソリンスタンド、コンビニ、吉野家の牛丼などが営業を再開する中、海岸近くでは、時間が止まった様な光景がどこまでも続きます。



22日、野菜、米、洋服など支援物資をトラックに積み込み仮設住宅に届けました。

週刊区政報告に対するご意見、ご要望お寄せください バックナンバーはHPに掲載

なかつか亮メールアドレス「ryo@nakatsukaryo.net」

瓦礫が取り除かれた住宅街では、ここが町だったことが想像できないほど閑散とした光景。取り除かれた瓦礫や廃車となった車は沿岸部に積み上げられたまま。震災から一年が経過したが、生活の再建は遅々として進んでいません。

仮設住宅にて

石巻市内の共産党
救援センターで、支



昨年6月に仮設住宅に入居した鈴木さん。畳、窓の2重サッシ、玄関フタ、壁の防寒対策が、後から設置され「どうして、はじめから無いのか」と話します。

さらに、お風呂の「追いだき機能」が無く、不便な生活を強いられています。

援物資を仕分け、翌22日に仮設住宅に届けました。

仮設住宅で鈴木さん（写真）にお話を伺う事ができました。35年間、ウニの箱詰めを仕事としてきた鈴木さん。震災当日は、前日ウニ漁が休業となったことから休日となり、自宅にいました。「私はたまたま仕事で休みで、海近くの作業

場に居なかった。アラスカの業者との取引で出社していた会社の専務は津波にのまれてしまった」と語ります。

自宅も仕事も失う

鈴木さんの自宅は津波で全壊。「見つけたのは会社から頂いた感謝状一枚。あとは全て海に流された。35年働いて、これが私の全てです。」と話します。

工場は再建されたが今年で65才になる鈴木さんの採用は難しい状況。「会社に残りたくないので、無理は言えない。でも自宅を立て直す目途が全く立たない」と訴えます。同じ仮設住宅では、夫婦二人、子供二人

の家族にも話を伺う事ができました。

この方は結婚し、家族が増え、30年ローンを組んで5年前に住宅を購入。これからと言う時に津波で全てを失いました。「漁業の再開はまだなので、今は車の整備工場でアルバイト。仕事は選んでられません。この収入では家族4人の生活は無理です。自宅は津波に流されローンだけが残りました。子どもの前では明るく振る舞うように心がけていますが、この先、どうしたら良いのか」と話します。お伝えしたい被災地の実態はまだあります。次号へ続きます。なかつか亮

引き続きの支援を呼びかけます 震災募金にご協力を

日本共産党

被災地支援はまだ必要です。引き続きのご支援を訴えます。また、こうした被災者の生活奪う、消費税の引き上げは、被災地の復興を妨げます。共産党は、消費税増税に反対すると共に、「消費税に頼らない財源作り」を発表しています。この「対案」全文は共産党ホームページに掲載中。対案ダイジェスト版も配布中ですので、ご覧ください。